



紀々(きき)

1998年に早稲田大学第一文学部哲学専攻卒業後、電子オルガン奏者に。2003年にコーチングの資格取得後、企業・個人のサポートを始める。哲學家、企業研修やブログ「紀々の記」等を通じて、働く現場の元気度アップに取り組むとともに、音楽、レザークラフトなど幅広い分野で活躍中。

「楽しい仕事」を哲楽すると…

**仕事に対する思いで
若い人が大切にしている仲間感**

「楽しく仕事をしたいって言うたって…仕事は遊びじゃないんだし」というのは、企業の経営者層の方々から、時々届く困惑の声です。こうした声から、経営者層の方々は、若い世代が「楽しく仕事をしたい」という感覚に大きな違和感を覚えていることが見えてきました。

「仕事＝辛さに耐えて(乗り越えて)やるもの。仕事なんだから」これが、経営者層の方々の気持ちのようです。そして、これは「楽しい遊び。仕事ではないこと」と思っているからではないか、そもそも世代によって「楽しい」の定義に違いがあるのではないかと私は考えるようになりました。

この違いを埋め、相手のことを理解するためにも、コミュニケーションは大切。「どうせ、あの人はわかってくれない」となってしまうのは、仕事の連携にも影響が出てしまうかもしれません。

そこで、現在36歳の私の視点から、同世代の「仕事において感じる楽しさ」というものを考えてみると…。「達成感がある」「やらされ感ではなく、自ら取り組むもの」「ワクワクする」などの表現が近いのではないかと思います。

決して、遊びで感じる楽しさや、受け身(誰かに楽しませてもらう)の楽しさと同じではない、と。そして、わかってきたことは、この感覚は、実はほとんどの人に共通するものなのだ、ということでした。

現に、「仕事が楽しいと感じるのは、どういう時ですか」と質問すると、「達成感を感じたとき」や「ありがとうという言葉をもらった時」「自分で決めて、自分の意思で進んでいると実感できた時」という言葉が、世代や男女を問わず聞かれます。

逆に、「仕事がつまらないと感じる時は？」と質問すると、とても多く聞かれるのが「やらされ感がある」「達成感がない」「目標がハッキリしない」という言葉。「評価されない」という声もよく耳にします。

ただ…そこで、若い世代が、ほかの世代より、強く仕事に求めているのではないかと思われるのが、「同じ思いで一緒に取り組む人がいる」という「仲間感」。だからこそ、職場での人間関係に挫けると、仕事でも大きなダメージを受けてしまうのかもしれない。

互いの「顔」がよく見える 仕事の進め方を考えよう

世代の違いというと、飲み会についての方でも面白い違いを感じます。「知らない人と知り合えるから、飲み会は面白い」という先輩世代と、「知っている人と飲みに行くから面白い(知らない人と飲みに行くのは、気が進まない)」という若手世代。これを知った時は少し驚きましたが、いろいろな話を聞いていくと、どちらの気持ちも、わかります。

それからの私は、「飲み会の若手の参加率を上げるためには、業務時間内で、知っている関係者を築いておくことがポイント」と考えるよう

になりました。研修中、講師である私が一方的に話すのではなく、輪になって、お互いの顔が見える状況で、全員に、なるべく多くのことを語ってもらおうスタイルをとることにしたのです。「お互いを、知ってもらう」ために…。

すると、研修自体が笑いと明るい空気になることはもとより、その後の打ち上げの盛り上がりも違いました！そして、それは翌日からの仕事に対する姿勢にも好影響を及ぼしていくものなのです。

例えば、ある東京のコーチング先の企業では、研修を終えて沖繩に帰った私の元に、上司の一人から次のような後日談が届きました。

「あれから、メンバーがこまめに話し合っている場面が見られるようになりました。チームの団結力が高まっているのを感じます」

楽しく仕事をしているというのは、きっと「職場にいる時、笑顔で過ごしている」とことなのではないかと、最近、私は考えています。

相手に関心を持ち、仕事に関心を持ち、目標を持って「自分エンジン」で動く…そんな状態。あなたなら、楽しく仕事をするために、何があつたらいいですか？

「楽しい」は、人それぞれ。そのお互いの感覚を理解し、力を合わせて仕事に取り組むためにも、日ごろのコミュニケーションが欠かせないのだと思います。そして、「いい顔」こそが「楽しさ」のバロメーター。あなたや、あなたの職場の方々の表情はいかがですか？

あした…転機に、なあれ！

楽しく
仕事に
いますか？

